

# 知っていますか？ セルフスタンドに潜む危険

## 消防の広場

### 119

火事・救急・救助

付けていますか  
住宅用火災警報器  
月に一度は動作点検



セルフスタンドは年々増え、今ではとても身近な存在となっています。しかし、利用者の不注意や間違った取り扱いにより、少なからず事故が起きています。燃料は危険なものであるという認識を持ち、セルフスタンドを利用するときは、注意事項や正しい操作方法を確認してから給油作業を行いましょう。

### 正しい操作方法を確認



軽自動車だと思って…  
概要  
軽自動車でも燃料補給に訪れ、軽自動車なので「軽」がつく「軽油」を給油した。その後、走っている途中で突然エンジンが止まってしまった。  
対策  
ガソリンを給油すべきであったのに、軽油を給油したことが原因。給油する際には、自車に適した燃料であることを確認するとともに、給油ノズルの油種が適用油種か再確認して給油してください。



## セルフスタンド利用上の注意

セルフスタンドは、ドライバー自らが給油作業を行うため、取り扱いを誤ると大きな事故につながります。次の事項に十分注意して安全に行いましょう。

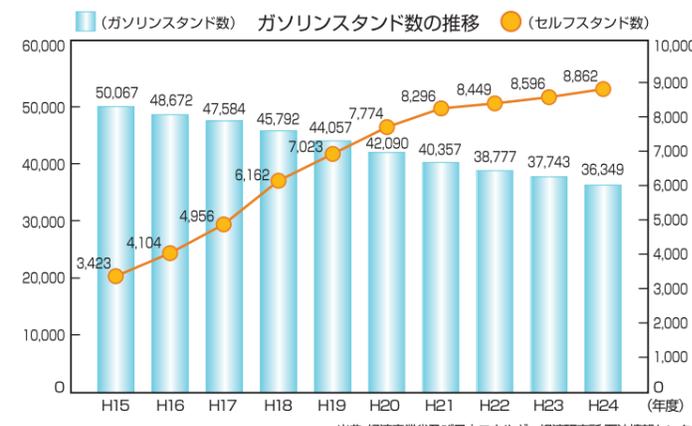
1. エンジンオフ  
指定の場所に停車し、必ずエンジンを停止。
2. 油種の確認  
自動車に適した油種であることを確認
3. 静電気除去シートにタッチ  
静電気とは、体と衣類の摩擦などによって発生した電気が溜まったものです。その電圧は、ときに1万ボルトに達するともいわれ、放電の際、ガソリンの可燃性蒸気が存在すると引火する危険性があります。
4. 正しい操作で給油を  
給油ノズルをしっかりと差し込んで使用
5. 注ぎ足し給油をしない  
注ぎ足し給油は、ガソリン等の燃料が給油

6. 給油口キャップの閉め忘れに注意  
給油口から燃料や蒸気が漏れるおそれがあり、危険です。  
※消防法令に適合した容器であっても、利用客が自らガソリンを容器に詰め替えることは禁止されています。  
※ガソリンは気温が-40度でも気化し、小さな火源でも爆発的に燃焼する物質です。ガソリンの蒸気は、空気より重いいため、穴やくぼみなどに溜まりやすく、離れたところにある思わぬ火源によって引火する危険性があります。



従来のガソリンスタンドでは、ガソリンや軽油等の燃料を取り扱うことから火災の危険性が高く、危険物取扱者の資格を持つ従業員が給油作業を行ってきました。  
しかし、平成10年4月に消防法が改正され、より一層の安全対策を講じることで「ドライバー自らが給油作業を行えるセルフスタンド」が認められました。全国的に見るとガソリンスタンドは減少傾向にありますが、セルフスタンドは、利便性などから増える傾向にある。

### 増えるセルフスタンド



## 第42回 全国消防救助技術大会に出場

8月22日、第42回全国消防救助技術大会が広島市内で行われ、市消防本部の平井孝直消防士長、山本篤生消防士長、原光海消防士が「ほふく救出の部」に出場しました。今後もより高度な救助技術を習得するため、訓練を積み重ねていきます。



▲全国消防救助大会に出場した山本消防士長(左)、原消防士(中央)、平井消防士長

### 静電気除去シートに近づくと危険な事故事例

触れなかったために…



### 危険な事故事例

セルフスタンドの主な事故として、「静電気による火災」や「燃料タンクからのガソリンの吹きこぼれによる火災」があります。  
最近では、「誤給油」や「給油キャップの閉め忘れ」といった、うっかりミスから起きる走行トラブルや燃料の漏えい事故も報告されています。

### 事故はうっかりミスから

ります。